

番号	28 - 19	申請者	看護師 安田 智美
【審査申請課題】 NIPPVにおける皮膚とらぶる予防・改善対策 ー鼻マスクのサイズ変更の試みー			
【審査課題の概要】 長期間NIPPVにおける鼻マスクを使用している患者に対し、マスクのサイズを定期的に変更し圧迫部位を変えることで皮膚トラブルの改善に繋がるかを明らかにする。			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		

番号	28 - 20	申請者	看護師 山口 望
<p>【審査申請課題】</p> <p>スピーキングカニューレ導入を行った患者に対する看護師の思い ～B患者とのコミュニケーションを通して～</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>筋ジストロフィーは進行性の疾患であり、呼吸状態の悪化に伴い気管切開・人工呼吸器装着を選択される患者がいる。気管切開・人工呼吸器装着により発声が絶たれるため、患者のQOL維持のために有効なコミュニケーション方法を獲得することはとても重要な課題となる。</p> <p>A病棟には急激な呼吸状態の悪化により気管切開・人工呼吸器装着を行ったB患者がいる。急な病状悪化であったため、コミュニケーション方法について十分な検討を行うことができていなかった。術後、B患者は声が出ないことや自分の気持ちがうまく伝わらないことから、強いストレスを感じ、諦めにも似た表情を見せることが多くなっていた。文字盤や読唇によるコミュニケーションも試みたが、思うようにコミュニケーションを図ることができなかった。</p> <p>B患者の術後呼吸状態は良好であり、人工呼吸器の離脱が可能であった。そこでスピーキングカニューレを導入することによって、声を出すことによるコミュニケーション方法を確立してはどうかと考えB患者にも提案し了承を得た。しかし、スピーキングカニューレ導入後は言語聴覚士の介入による実践は少しずつできているが、看護師が発声訓練を促すと「きつい、したくない」との発言があり、看護師による発声訓練の実践ができていない経過がある。</p> <p>先行研究では、スピーキングカニューレ導入を行った患者に対する看護師の思い・考えを分析したものはあまりみられない。そこで、看護師による発声訓練の実施ができない要因を知るために、B患者とコミュニケーションを図るうえで看護師がどのような思いでケアを行っているのかを明らかにし、今後の看護に役立てたいと考えた。</p>			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		

番号	28 - 21	申請者	看護師 古澤 桂子
<p>【審査申請課題】</p> <p>重症心身障害者A氏の食事摂取量増加に向けた取り組み</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>主病名、重症脳性麻痺・難治性てんかんで食事介助方法が難しいと感じる重症心身障害者(以下A氏とする)がいる。A氏は日により変化はあるが食事の時にむせて酸素飽和度が低下することがある。食事摂取困難時に鼻腔から栄養カテーテルを挿入し水分を注入している。またこの状況が多くなり、時には酸素吸入が必要となり発熱がみられ抗菌薬内服になることもある。</p> <p>A氏は食事介助者によって食事摂取量等に変化がみられると感じることがある。食事摂取量が多いと感じる時、食事介助者はA氏に合った介助方法をしているのではないかと考えた。先行研究で、食事介助において看護師の身体知や身体知の獲得プロセスを見出す方法として、研究者がビデオを持ち込むというアプローチが有効であることが示唆されたという報告がある。スタッフの食事介助場面をビデオカメラで撮影・視聴し意見交換を行い、A氏の摂食・嚥下状態に合わせた食事介助方法のポイントをつかむことができ、食事摂取量増加に繋がるのではと考えた。</p>			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		

番号	28 - 22	申請者	看護師 渡辺 久美子
<p>【審査申請課題】</p> <p>A病院外来通院中の関節リウマチ患者の口腔ケアに関する実態調査</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>関節リウマチ(以下RA)治療は、メトレキサートと生物学的製剤の登場で大きく進歩し、治療目標は「痛みの緩和」から「寛解導入」へと変化している。その中で近年、RAと歯周病との関連性が示唆されている。歯周病は30歳以上の成人の約80%が罹患している慢性疾患で、RAの発症に先立って検出される抗CCP抗体の産生を引き起こし、RAの発症につながっているのではないかと考えられており、またRA疾患活動性に影響を与えるという報告もなされている。</p> <p>慢性疾患であるRAに対する看護では、セルフケア能力と自己管理意識の向上のための患者指導が必要であり、また歯周病に起因した呼吸器感染症や歯周病関連重症感染症の予防の観点から口腔内保清に対する患者指導も重要である。しかし、看護の現場では患者より歯科の定期受診を行っていないという声や、歯に異常を感じ受診したところ数か所に齶歯が見つかったとの声が複数人聞かれた。これらは日常的な口腔清掃が不十分である可能性があり、RAと歯周病との関連性に対する知識不足もあるのではないかと考えている。更には歯科受診の遅れにより、齶歯から顎骨壊死を来した患者もおり、口腔ケアについての患者指導の必要性を強く感じている。</p> <p>先行研究で、対象のRA患者は口腔ケアを行う過程での関節痛やRAによる開口時の顎関節痛などの苦痛を伴うが、歯磨き回数が歯科疾患実態調査より多く、電動歯ブラシへの関心が高いなど口腔ケアに対する意識が高かったという結果が報告されている。しかしRA患者が感染予防の認識の下で口腔ケアを行っているのかの調査を行った研究は見当たらなかった。</p> <p>そこで、RA患者に口腔ケアの必要性の理解度や口腔ケアの習慣、歯科受診の状況などを調査し、その実態を知ることによって患者指導につなげていけるのではないかと考え、この研究に取り組んだ。</p>			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		

番号	28 - 23	申請者	看護師 小森田 葉子
<p>【審査申請課題】</p> <p>手術を受ける患者に対する術後せん妄の予防的介入ケアの効果の検討</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>A病棟では、高齢で侵襲の大きい全身麻酔下での手術を受ける患者の看護を担っている。手術や全身麻酔という身体的侵襲、全身状態・精神状態や環境の変化から、術後せん妄をきたす患者は多い。入院時や術前に不穏やせん妄のリスクをアセスメントし、術後に備えてはいるが、スタッフ全員が統一したアセスメントや予防的ケアの介入ができておらず、術後せん妄が起こった段階での対応となっている現状がある。先行研究でもアセスメントシートの導入により看護介入に対する意識が高まった、パンフレットを使用することで術後せん妄の発症率を低下させる一要因となったと述べられている。</p> <p>今回、術後せん妄評価スケールを用いてリスクアセスメントをより具体的にし、患者家族への術後せん妄ケア(パンフレットを使用した術後せん妄についての説明、環境への働きかけ)の実践を通して、術後せん妄予防のための介入の効果を明らかにしたいと考えたため、この研究に取り組むこととした。</p>			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		

番号	28 - 24	申請者	看護師 西田 純子
<p>【審査申請課題】</p> <p>「ALSの進行状況における段階的なアプローチの方法の検討」 ～看護師の意識調査～</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>当病棟は神経・難病、ALSセンターであり、県の拠点病院としての役割を担っている。ALSは進行性の疾患で呼吸障害や嚥下障害の進行に伴い、人工呼吸器の装着、胃瘻造設等の延命に関する意思決定への支援が必要となる。ケアの観点から継続的な意思決定が求められ、そのタイミングの遅れは、極力避けなければならない。しかし、揺れ動く患者・家族の思いをタイムリーにキャッチしたアプローチができない場合が多い。そこで、今回、在籍している看護師をはじめ、ALSという特有の疾患に対して、新人看護師をはじめ看護師全員が、対象者の全体像の把握と看護介入のタイミング、段階的なアプローチの方法を理解した上で、それぞれの患者に応じた対応ができるようなケアプラン表を作成し活用を試みたいと考えた。そしてケアプラン表を用いることで看護師の考え方や行動がどう変化したかをアンケート調査により明らかにしたいと思い、本研究に取り組みたい。</p>			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		

番号	28 - 25	申請者	看護師 丸山 さとみ
<p>【審査申請課題】</p> <p>「夫婦で入院中の患者の家族看護の効果」 ーカルガリー家族看護モデルを活用してー</p>			
<p>【審査課題の概要】</p> <p>今回地域包括ケア病棟への準備を進めていく中で、夫は腓体部癌にて2016年5月から入院化学療法を行い、合併症として糖尿病があり、インスリン自己注射している。妻は、在宅で生活していたが、夫の自宅退院が決まるタイミングで腰痛が出現し、腰椎圧迫骨折にて安静・リハビリ目的で2016年6月入院となり、夫婦で入院している状況であった。</p> <p>キーパーソンとなる長男夫婦は他県に在住していて夫婦の元へ帰省する予定はなく、次男は知的障害があり施設に入所している。</p> <p>上記のような状態での、退院支援は困難を極めることが予測された。</p> <p>そこで、退院支援を行う際にカルガリー式アセスメントモデル・カルガリー式介入モデルを用いてこの患者の家族関係をアセスメントし、その介入技術を明らかにしたいと考えた。</p>			
審査結果	承認 (平成28年9月30日)		